

金水敏 名誉教授

文化功労者顕彰記念講演会

2024年2月23日(金・祝) 14:00～16:20 (13:30開場)

大阪大学会館 講堂 (会場参加形式) 定員200名・要事前申し込み・無料・一般来聴歓迎

プログラム

14:00 開会の挨拶：宮本陽一 (大阪大学大学院人文学研究科長・人文学林長)

14:10 講演：「日本語学から見た現代小説と翻訳－村上春樹を中心に－」金水敏 (大阪大学名誉教授・放送大学大阪学習センター所長)

15:20 座談会：「ことばと文学の間で－翻訳と日本語をめぐる対話」

金水敏・高木千恵 (大阪大学教授・日本語学)・鈴木暁世 (大阪大学准教授・比較文学)・渡邊英理 (大阪大学教授・日本文学)

16:20 閉会の挨拶：栗原麻子 (大阪大学文学部長)

17:00～19:00 祝賀会：大阪大学会館 アセンブリー・ホール

※関係者のみ・定員70名・要事前申し込み・会費6000円 (会費は当日会場にて申し受けます)

参加のお申し込み

2024年1月31日(水)までに、下記のQRコードよりお申し込みください。
定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

<https://forms.office.com/r/2mctbDf9Fh>



お問い合わせ先

大阪大学大学院人文学研究科 日本文学・日本語史学研究室
Email: kinsui20240223@googlegroups.com

主催：大阪大学文学部／大阪大学大学院人文学研究科人文学林
共催：大阪大学国語国文学会

金水敏 名誉教授

文化功労者顕彰記念講演会

2024年2月23日(金・祝) 14:00~16:20(13:30 開場)

大阪大学会館 講堂(会場参加形式) 定員200名・要事前申し込み・無料・一般来聴歓迎

村上春樹は、国際的に名声を得た小説家でありながら、自身の小説作品よりも翻訳作品(主にアメリカ小説)の方が刊行数が多いという、世界に見ても極めて特異な存在である。多くの日本の作家が、先行する、あるいは同時代の日本の作家の作品を読み込み、学ぶことによって自身の小説言語や作家性を育ててきたのに対し、村上は日本の近現代文学から徹底して距離を取り、むしろ海外(アメリカ)文学とその翻訳を咀嚼することで小説家「村上春樹/Haruki Murakami」を育ててきたように見える。本講演では、彼の目指した新しい日本語文体の創成の過程を作品と言説から辿っていくとともに、日本語学の観点からの分析を通して、その文体や語彙の具体的な特徴を提示してみたい。

プログラム

14:00 開会の挨拶: 宮本陽一(人文学研究科長・人文学林長)

14:10 講演: 「日本語学から見た現代小説と翻訳ー村上春樹を中心にー」 金水敏(名誉教授・放送大学大阪学習センター所長)

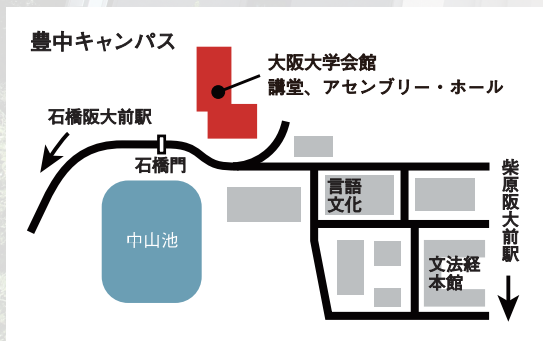
15:20 座談会: 「ことばと文学の間でー翻訳と日本語をめぐる対話」

金水敏・高木千恵(教授・日本語学)・鈴木暁世(准教授・比較文学)・渡邊英理(教授・日本文学)

16:20 閉会の挨拶: 栗原麻子(文学部長)

17:00~19:00 祝賀会: 大阪大学会館 アセンブリーホール

※関係者のみ・定員70名・要事前申し込み・会費6000円(会費は当日会場にて申し受けます)



参加のお申し込み

2024年1月31日(水)までに、下記のQRコードよりお申し込みください。
定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

<https://forms.office.com/r/2mctbDf9Fh>



金水敏(きんすい・さとし) 名誉教授 プロフィール

日本学士院会員、大阪大学名誉教授、放送大学大阪学習センター所長。博士(文学)。東京大学大学院修士課程修了。神戸大学、大阪女子大学等を経て、2022年3月まで大阪大学大学院文学研究科教授。2016~2017年に文学研究科長・文学部長を務める。「ある」「いる」「おる」など日本語の存在表現の歴史を解明し、「役割語」という新たな概念も提唱した業績により、令和5年度文化功労者に選ばれる。主な著書に『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』(岩波書店 2003、岩波現代文庫 2023)、『日本語存在表現の歴史』(ひつじ書房 2006 新村出賞受賞)。また、2017年より「村上春樹翻訳調査プロジェクト」を立ち上げ、報告書1~5号を「大阪大学学術情報庫 OUKA」より無料公開している。

お問い合わせ先

大阪大学大学院人文学研究科 日本文学・日本語史学研究室

Email: kinsui20240223@googlegroups.com

主催: 大阪大学文学部 / 大阪大学大学院人文学研究科人文学林

共催: 大阪大学国語国文学会